

メッセージ

2011年5月14日（土）

ドリス・ドラッカー

本日、ドラッカー学会第6回総会及び記念講演会において、故ピーター・F・ドラッカーの妻として、また、アメリカのみならず世界中の日本の友人の一人として、3月11日の災害について心底から哀悼の意をお伝えする機会をいただきましたことを大きな名誉と存じます。

私たちは、地震と津波の犠牲になられた方々に心を痛めながらも、法と秩序が見事に維持されていることに心を打たれております。本日開催のドラッカー学会の総会も、災厄を乗り越えようとされる日本の方々の姿を象徴するものと存じます。

避難所、食糧、電気ほかのライフラインの窮状が伝えられる一方、正常化への歩みに力強さを感じております。『エコノミスト』誌は、他の国では災害時に必ず目にする略奪の類が一切なかったと報じております。素晴らしいことです。

最初の地震のとき列車に閉じ込められた或る外国人は、フェイスブックに体験談を書いています。乗客や乗務員がどのように力づけあっていたかを報告し、16時間閉じ込められたあと帰宅するのにさらに9時間かかることになるのならば、日本に限ると賞賛していました。

ピーターは亡くなる直前、日本の明治時代について本を書くべく梗概をまとめていました。どんな本になっていたかは知りません。しかしピーターは、生前、「お書きになったものの内どの本がベストのもの」ですかと聞かれると、決まって、「次のもの」と答えていました。亡くなった時には、その明治についての本が「次のもの」でした。そしてそれがピーターの遺作となるはずのものでした。

体調を崩し、帰らぬ身となってしまったために、この明治についての本は頓挫しました。しかし梗概を見れば、彼がなぜあの時代に心を惹かれていたかが分かります。明治は特別の時代でした。しかも桁外れに大きな意味を持つ時代でした。なぜなら明治こそが、「日本」という土台の上に「近代社会」を築くことができたからです。日本以外に、自らの伝統の上に近代社会を築くことのできた国はありません。

自らが必要とするものを選択し、それを自らの制度と機関にするうえで日本ほど卓越した能力を持つ国はありません。しかも日本にとっては、そのようなことは決して目新しいことではありません。何回も行い何回も成功してきたことです。

ピーターは、明治維新の成功を奇跡と位置付けていました。そしてそれを第二の奇跡である太平洋戦争からの完全復興の先駆けと位置付けていました。そして今、私たちがここでもう一度、第三の奇跡として、今回の震災からの完全復興を期待することは望みすぎというべきでしょうか。

日本は大昔から、火難水難からの再建を繰り返してきました。そのような日本の底力を知る内外の識者たちは、今回の災厄を前に発揮されつつある市民の力が政治を動かし、新たな絆を生むことを確信しています。ピーターのマネジメント思想が、社会とコミュニティに貢献するのはここにおいてでしょう。

私は今日ドラッカー学会の集まりにご参席の皆様がそのような場において主役を果たされることを確信しています。

（上田惇生訳）